道徳教育の基本方針

①　授業のねらいの明確化

□ポイント

①内容項目の系統性を考慮し、計画的・発展的にねらいを設定する。

②同じ内容項目でも「道徳的心情」「道徳的判断力」「道徳的実践意欲と態度」のどれかにねらいを絞り込む。

指導例）

１時間目　・自己の命の輝き　　・生きている歓び、感動を感得させる

…どのようなときに「生きているっていいなあ」と感じましたか。

（主に道徳的心情）

２時間目　・死について考えさせる　・生命の有限性

…終わりがあるからこそ「今、何を大切にしたい」と思いますか。

（主に道徳的判断力）

３時間目　・唯一性を理解させる　・自他の生命の大切さ

…どのようなときに「命を大切にしなければいけない」と感じますか。

（主に道徳的判断力）

４時間目　・生命の連続性、共存性を理解させる　・命の神秘性・偶然性等

…この資料のどのようところから「命の尊さ」を感じましたか。

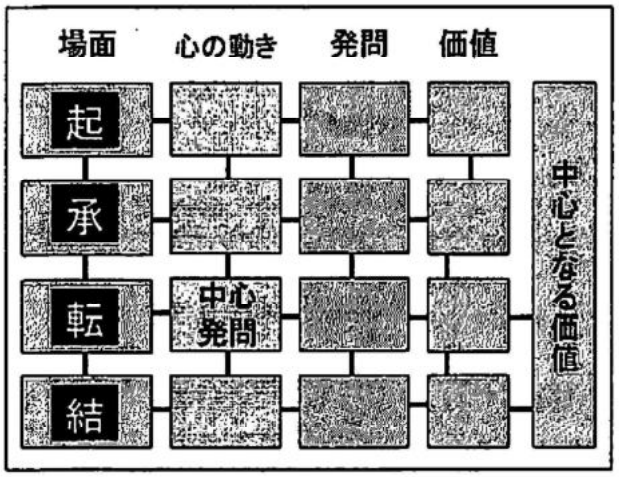
（道徳的実践意欲と態度）

②　教材研究の質の向上

□ポイント…①国語の読み取りのような授業にならないようにするために

→「時系列的な資料分析」から「構造的な視点に立つ資料吟味」へ

「時系列的な資料分析」



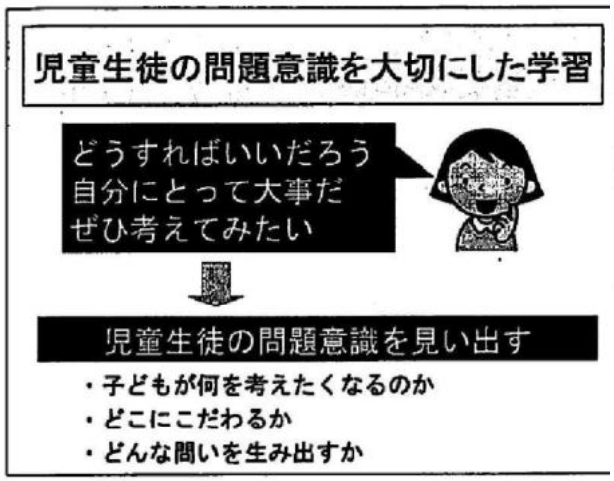
「構造的な視点に立つ資料吟味」

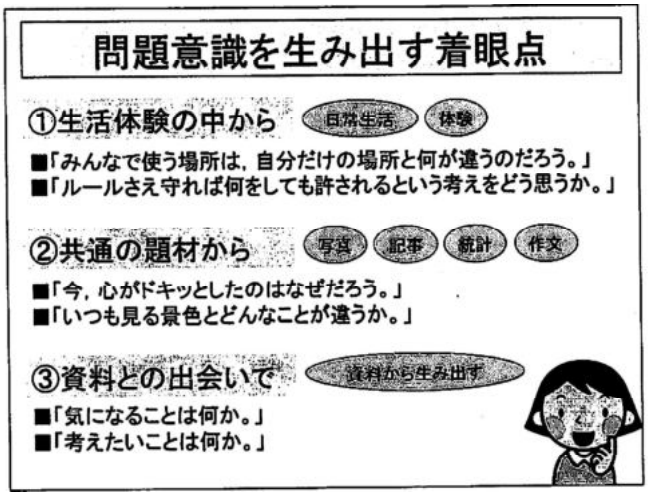
・生徒の視線に立って資料を読み、生徒が何を考えたくなるのか、どこにこだわるのかどんな問いを生み出すかについて検討する資料の吟味を最も重視する。

・授業のねらいは、何なのか。資料の中心場面が、授業の中心ではない。
授業のねらいに迫ることができる場面が、授業の中心である。

③　問題意識を生み出す導入の工夫

道徳の時間を「学習」として意識させる→教科指導と同じように学習課題を示す





特に③の資料との出会いから、主題に即した中心的な発問を生み出す導入を研究する

④　効果的な話合いの在り方

・話合いなどの言語活動は、手段であり目的ではない。

・目的は、授業のねらいを実現することである。

↓

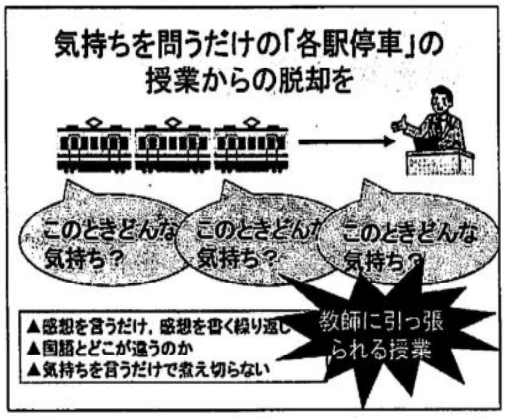
・どのように話し合わせるかは、何を話し合うのかで決まる。

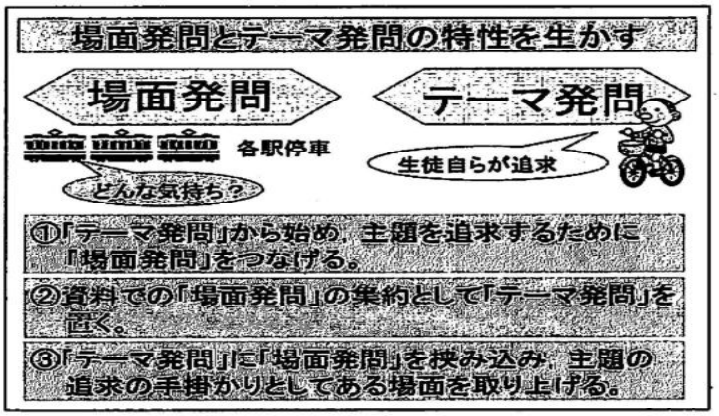
例）ア　多様な考え方があることに気付かせたい→近くの席の四人組で

　　イ　対立した考え方の共通点を考察させたい→対立した考え方の生徒による

　　ウ　一人では自分の考えをもてない生徒が多い→前後、隣の生徒によるペア

場面発問だけでは、グループによる話合いの必然性は生じないことが多い



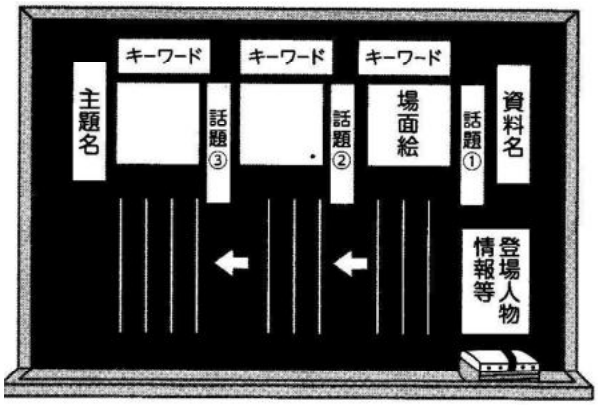


⑤　板書の工夫などの思考の可視化

・道徳の時間における板書の目的＝**道徳的価値の自覚を深める**ために行う

・板書の時間が、生徒が思考する時間になるように工夫する。

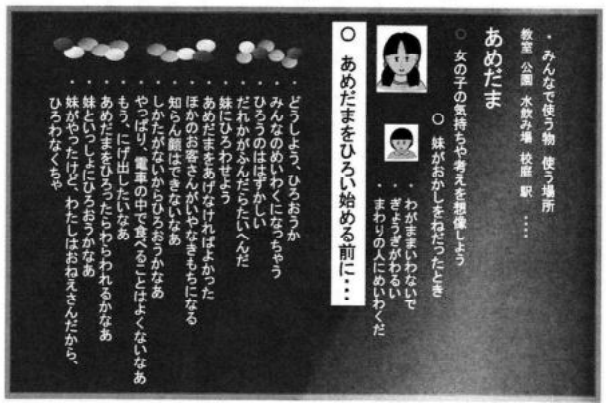
よく見られる授業の流れに沿った型



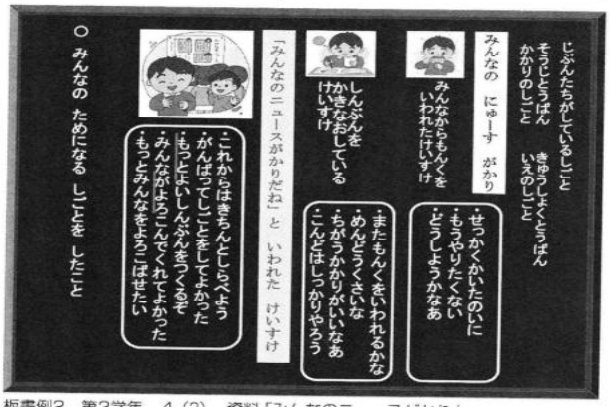
◆教科の授業では、一時間の授業の流れが分かるような板書が望ましいといわれる。

◆道徳の時間における板書は、生徒の思考の流れや順序を示す左のような順接的な板書により、授業後に流れが分かることを目指して行われるのではない。

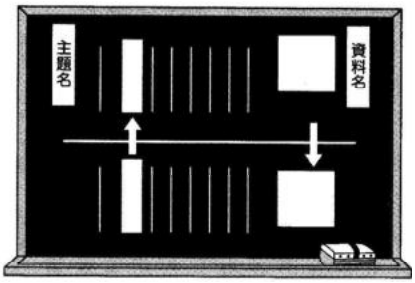
他者理解を目的とした板書例
［感じ方、考え方の多様性］



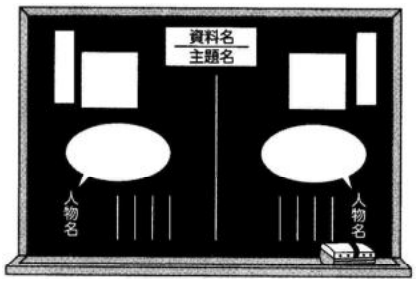
人間理解を目的とした板書例
［感じ方、考え方の変容や葛藤など］



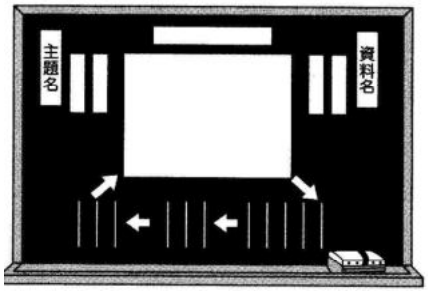
［上下対比型］



［左右対比型］



［テーマ発問中央型］



板書の時間で授業の流れが悪くなる理由→その時間に生徒が思考していないからです。

［聞く力、メモする力を高める板書の方法］

○発言する生徒がいる場合、続けて発言させる。

○教師は、発言者を見ながら発言内容を傾聴する。但し、ネームプレートだけは貼付又は、何人発言したか分かるように、マークだけ板書する。

○発言したい生徒がいなくなったら、発表者以外の生徒が聞き取った内容を確認しながら、考え方などを類型化しながら要点を板書していく。

⑥　小集団での話合いの成果を全体に広げる展開後段の在り方

□展開後段は、指導過程上、「価値の一般化」「価値の主体的自覚」の段階

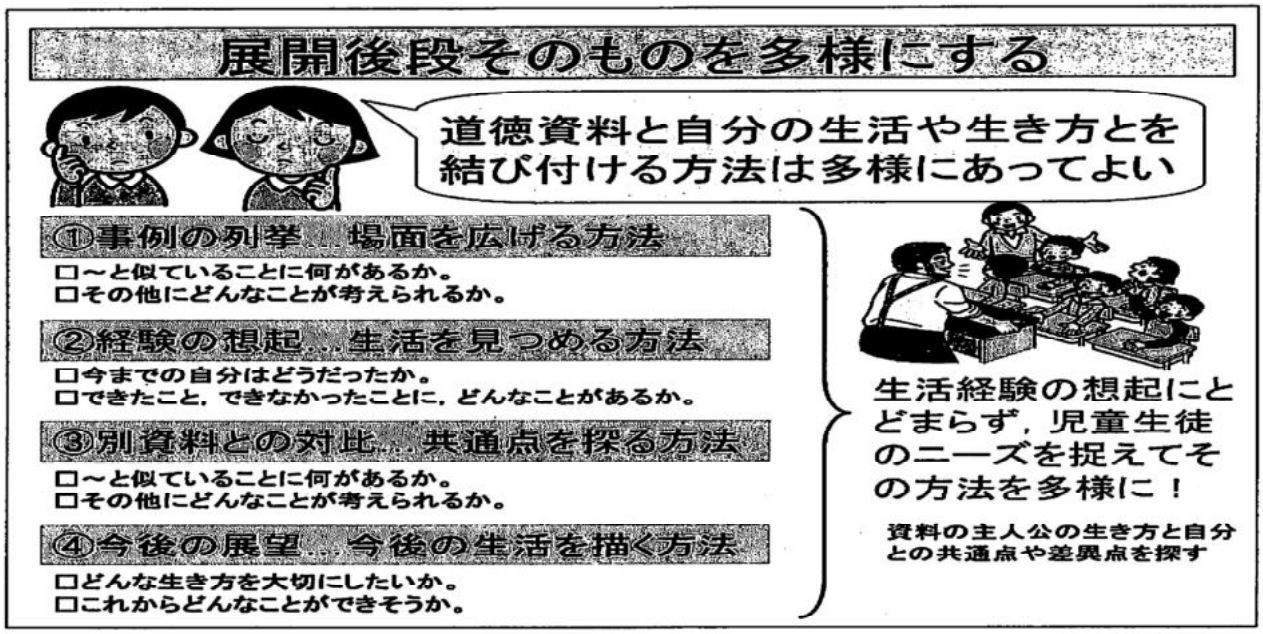
□指導のポイント

ⅰ指導者と生徒が、成長し続けている人間として、一緒に悩み、考える時間に

ⅱ生きる自信や希望、自尊感情（自己効力感、自己有用感、自己存在感等）が、高まり、志が太くなる時間に

↓

これまでや今の自分を見つめ直し、自己を肯定的に受け止めることができるようにする　→　自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにする



ⅲ経験想起の方法も多様に…「自分のことを主人公に手紙で伝えよう」
「セルフチェックをしてみよう」　など

ⅳ身近で具体的な資料を提示し、資料中の主人公との共通点を探る
「生徒の日記や作文」「教師などの説話」など

ⅴ現実を踏まえない決意表明にならないように配慮する
「今の自分を肯定した上で、さらに成長するために」という視点で

⑦　振り返りを活用した道徳性の育成

□振り返りカード、学習シート、道徳資料等の朝読書を使った共有化

□道徳ファイルに掲示し終わったカードやシートをポートフォリオとして保管し、同じ内容項目の学習で使用して、成長を実感させる。